

## 1. 改築の考え方

安方中学校は、校舎の過半が築40年経過するなど老朽化が進んでおり、全面改築に向けて、基本構想・基本計画を策定しました。

改築にあたっての基本的な考え方をまとめるため、大田区では、令和元年度より「安方中学校改築計画協議会」を設置し、具体的な検討に着手しました。大田区の上位構想や安方中学校の教育理念の内容を踏まえながら、改築計画協議会の開催、及びワークショップの活用により、委員の皆様、学校関係者や地域の方々のご協力のもと広く意見交換を行い検討を進めました。

今後は、この基本構想・基本計画にまとめた考え方に則り、設計から工事へと取組みを順次進めてまいります。

また、改築に際して、良好な教育環境を確保することを前提として、建物の容積率を活用し、地域特性や行政需要に応じた機能を置き込む複合化について検討しました。その結果、当該敷地に複合化に要する余剰面積が少ないため、安方中学校の改築においては複合化を行わないという結論に至りました。

大田区の基本的な学校改築の前提条件は次のとおりです。「体育館は、工事期間中も（既存体育館か新体育館のいずれかを）利用できる。」「給食は、工事期間中も、自校給食を継続する。」「改築後のグラウンドは、既存と同等以上の面積を確保する。」

## 2. 施設整備コンセプト

### 「豊かな人間性と未来を想像する力を育む学校」

これからの社会で必要とされる、学びのその先にある「生きる力」を育むことが出来るよう、良質な教育空間の実現を目指します。社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、「学びに向かう力・人間性の確立」「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力の向上」といった三つの力をバランスよく育める学校とします。

また、学校と地域が強く結びつき、相互に良い影響を与え合っている関係性を大切にします。今後も地域の方々に愛される学校として、卒業後も続いていくようなより良いつながりを築くことを目標とします。

上記の施設整備コンセプトの実現に向けて、下記の5つのテーマを設定しました。

#### ■ 基礎・基本の徹底と主体的な学習の展開

- 知識や交流の拠点を中心とした開かれた学びの空間づくり
- 自らの興味を発見できる環境づくり
- 学習活動の変化に柔軟に対応できる空間づくり

#### ■ 生徒の安全・安心な生活環境を実現する空間

- 生徒の居場所となる独立性と連続性を両立させた空間づくり
- 安全対策・バリアフリーの徹底
- 光や緑のある豊かな空間づくり
- 教師の目が届きやすい空間づくり

#### ■ 保護者・地域との協働した教育活動の展開

- 地域と学校が相互に連携して活動できる空間づくり
- 地域とともに作る手作りの学校
- 地域イベントに貢献できる空間づくり

#### ■ 体力及び運動能力の向上

- グラウンドの確保
- 部活動をサポートする空間づくり
- 体育施設の充実

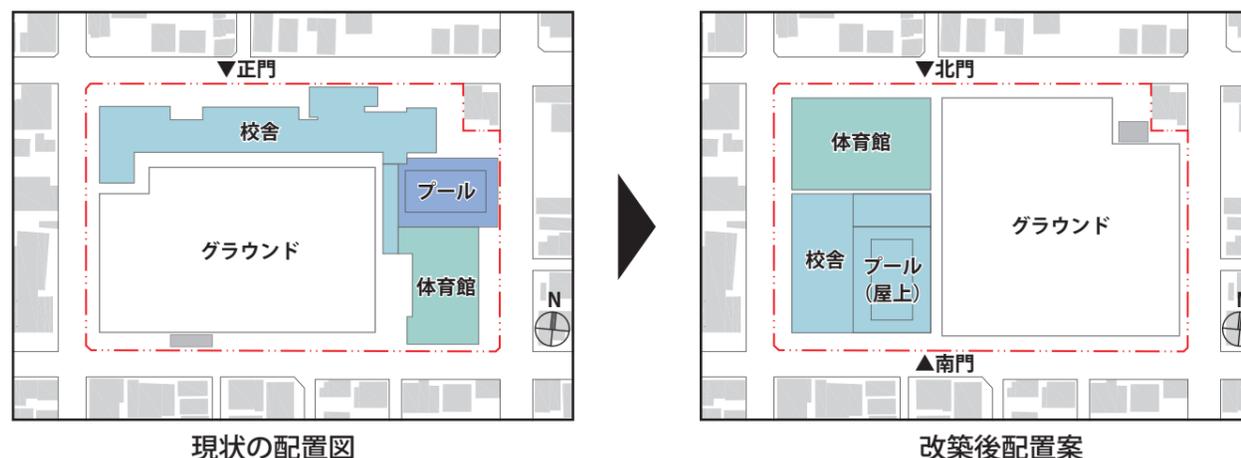
#### ■ 学校防災活動拠点としての学校づくり

- 地域の安全・安心の拠点となる活動拠点
- 災害時のインフラ確保
- 高齢者の利用に配慮した避難所

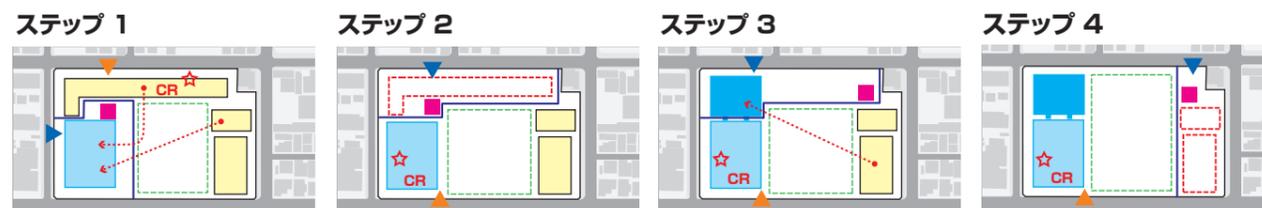
## 3. 現状の配置 及び 改築後配置案

本計画は既存校舎を利用しながら建替えを行うため、工事の手順を考慮しながら建物配置を検討しました。その結果、今回の配置案として、敷地の西側に校舎を集約配置する案を選定しました。選定に至る主な理由は以下のとおりです。

- 想定工事期間が他案と比較して短いこと。
- 仮設校舎が不要であること。
- グラウンドがほぼ整形で確保可能なこと。
- まとまった校舎形状により学習環境の向上が期待できること。
- 既存校舎の問題点である『校舎が東西に長いため、生徒の動線が長い。校舎棟と体育館棟が離れており、死角がある。』を改善し、『校舎をまとまった形状とすることで、生徒の動線を短くでき、コミュニケーションもとりやすくなる。また、死角も少なくなる。』ことが実現できる計画であること。



## 4. スケジュール案



- ①新校舎建設
- ②校舎引っ越し
- ③プール引っ越し
- ④既存校舎解体
- ⑤新体育館建設
- ⑥体育館引っ越し
- ⑦既存プール解体
- ⑧既存体育館解体
- ⑨外構整備

工事ステップの凡例	既存解体	新築校舎	グラウンド	現場事務所	工事車両動線	給食室
	赤点線	青点線	緑点線	赤点	青点線	赤星
	黄点線	青点線	青点線	赤点	赤点線	CR
		青点線	青点線	赤点	赤点線	CR

【備考】本資料における「改築後配置案」及び「スケジュール案」については、現時点で予定しているものであり、今後の基本設計・実施設計の詳細な検討に伴い、変更する可能性があります。

## 5. 新校舎の概要（参考）

### ゾーニング案

#### 【特徴】

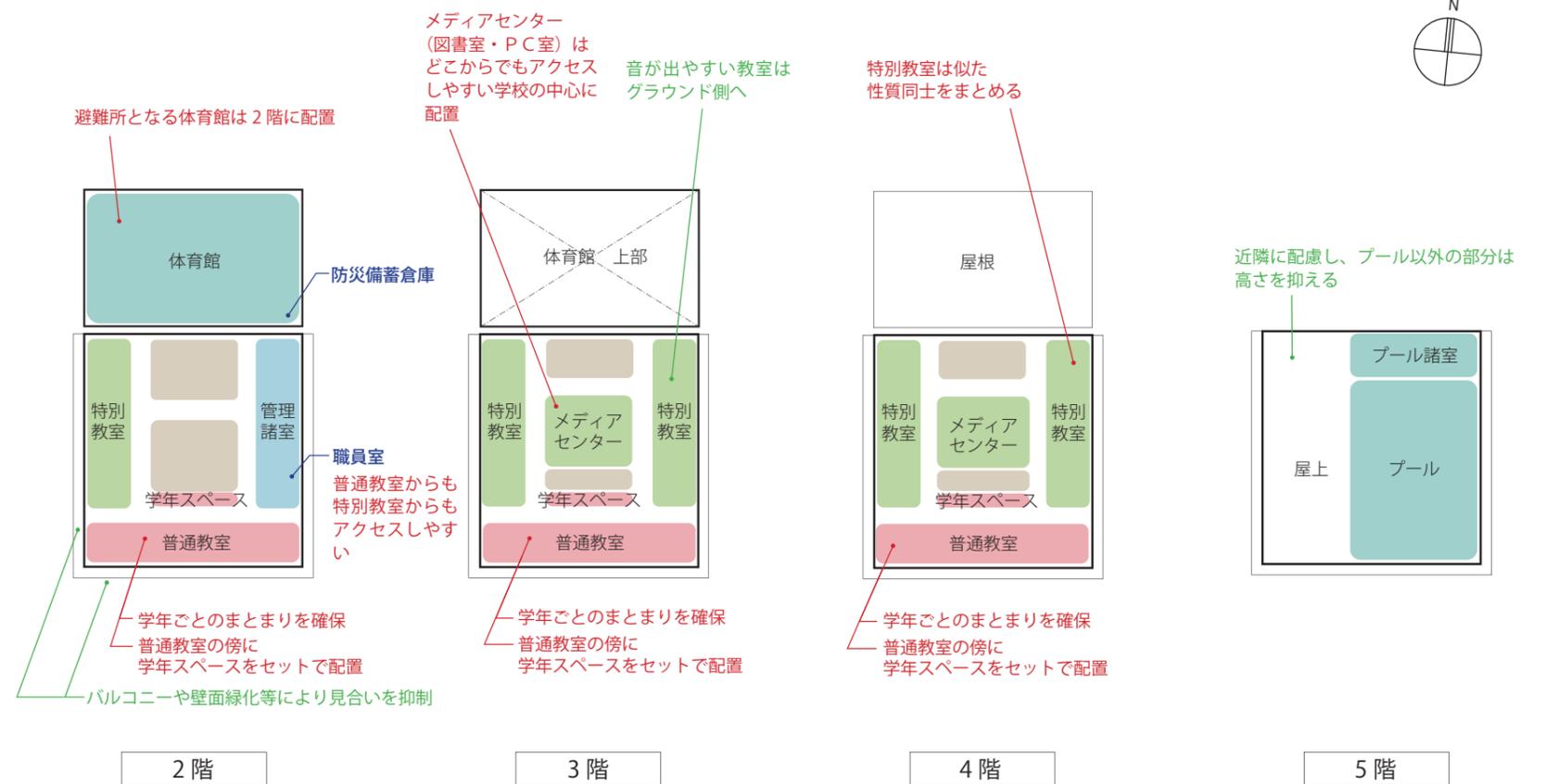
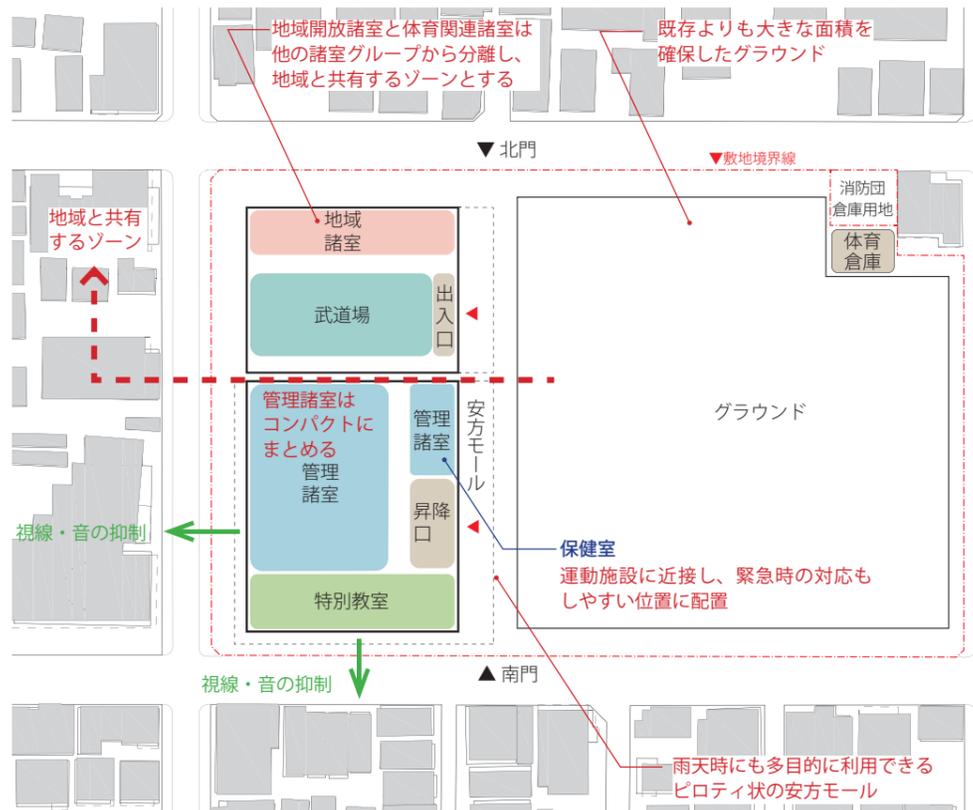
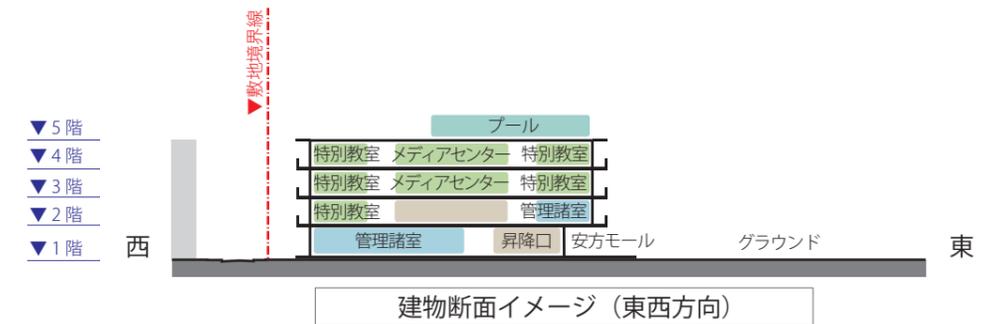
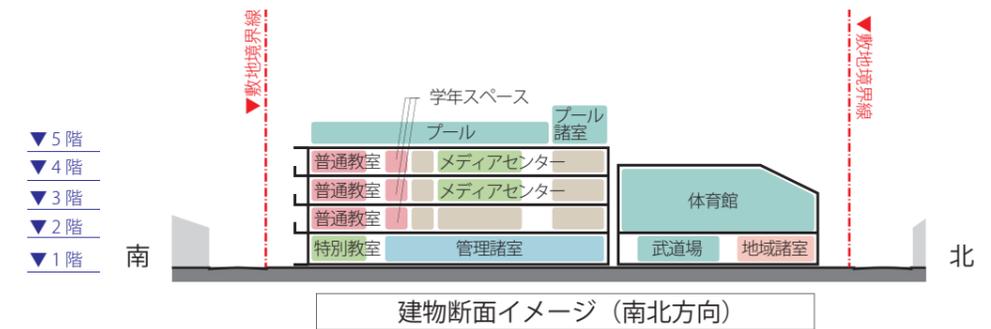
- 普通教室は南向きに配置されており、採光などの環境面では優れている。南側住宅への見下ろしへの配慮が必要。
- 職員室は2階のグラウンド側に配置。学校の中心に配置できるため、各所にアクセスしやすく管理面でも優れている。
- 特別教室は東側、西側に配置。音が出る教室についてはグラウンド側に配置することで近隣対策が可能。
- グラウンド面積は既存よりも大きく確保可能。

#### 【ワークショップで出された 意見の反映】

- 広い活動スペース ○
- グループ学習、話し合いや発表の為のスペース ○
- マルチに使える空間 ○
- メディアセンター ○
- 地域に開かれた学校 ○
- 地域施設と学校施設は別々にゾーニング ○
- 防災備蓄倉庫を体育館の傍に設置 ○

#### 予定建物規模

延床面積	: 約 9,600㎡ (含. ピロティ部)
階数	: 地上 5 階建て、地下なし
構造	: 鉄筋コンクリート造



凡例

普通教室	特別教室	管理諸室	体育関連諸室	地域開放諸室	その他 (WC、階段など)
------	------	------	--------	--------	---------------

※赤字はワークショップ意見の反映事項  
※緑文字は近隣配慮事項

※消防団倉庫の配置については現時点での想定

【備考】本資料における「ゾーニング案」については、現時点で予定しているものであり、今後の基本設計・実施設計の詳細な検討に伴い、変更する可能性があります。